

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

○概況

- ◆ 金融政策の据え置きを決定
- ◆ ラガルド総裁の会見では、PEPPの出口戦略についての議論は時期尚早と従来通りの主張を繰り返した
- ◆ GDP及びインフレ見通しは2021年、22年が大幅上方修正

✓ 6月10日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。**また、**パンデミック緊急資産購入プログラム（PEPP）やTLTRO-Ⅲ（条件付き長期リファイナンスオペ）の規模及び期間を維持した。**

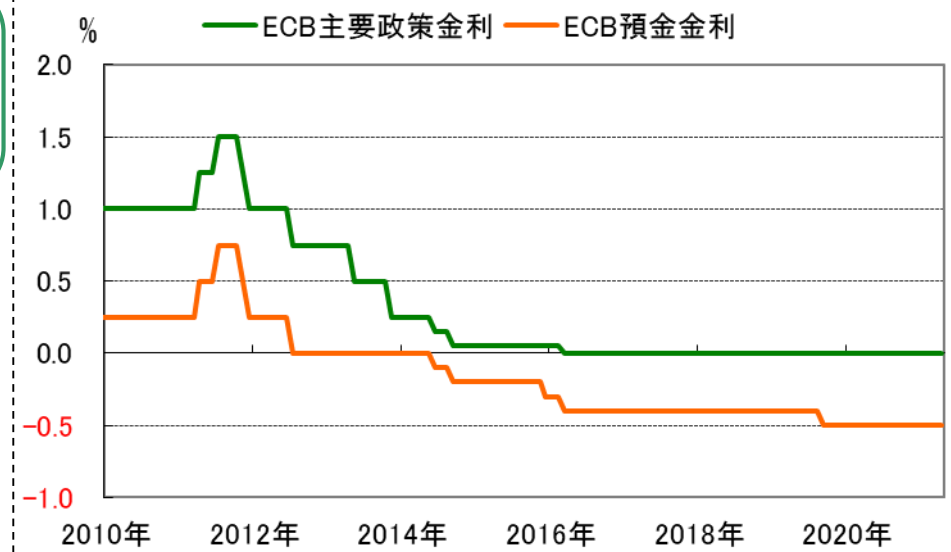
✓ またフォワードガイダンス（将来の金融政策方針）については、「**インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで現状ないし現状を下回るレベルで政策金利を維持する**」と据え置き。

✓ ECBスタッフによる景気見通しでは、**実質GDP成長率及び消費者物価について2021年と22年は大幅に上方修正された。**成長率の上振れは、**ワクチン接種の進展や次世代EUプログラムによる大規模追加経済対策、米国の経済対策による外需の上振れが要因**とされた。2021年と22年についてはインフレが上振れする予想となっているが、23年は修正しておらず、長期的にはECBの目標とする数値には到達しないと示した。

✓ ラガルド総裁は理事会後の会見では、4月会合と同様にPEPPについての質問が目立った。ただし、**PEPPの出口戦略についての議論は時期尚早**であるとの考えを継続した。

✓ 今回の会合は前回同様ハト派色を前面に押し出しており、目新しい材料はなかった。PEPPについては、会合後報道された内容によると、ECBメンバーの3名がPEPPの方針について意見が分かると報じられており**年後半にかけてPEPPの買入ペース減額への観測は強まりやすい**と考える。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（6月時点）】

	2021年	2022年	2023年
実質GDP成長率	+4.6	+4.7	+2.1
3月時点の見通し	+4.0	+4.1	+2.1
HICP(消費者物価)	+1.9	+1.5	+1.4
3月時点の見通し	+1.5	+1.2	+1.4

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg